

第1回いばらき県央地域連携中枢都市圏ビジョン懇談会意見等一覧（9月15日提出分）

No.	分類	意見等	回答
1	<p>「コンパクト化とネットワーク化」と「具体的な取組」との関係</p> <p>資料3 (P1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料4「都市圏ビジョン(素案)」の44ページからの作りとして、資料3「連携中枢都市圏構想の概要」では「連携による、コンパクト化、ネットワーク化」が繰り返し強調されていますが、資料4の48ページからの個々の事業においては、特に「コンパクト化」の要素がイメージできません。</li> <li>・資料4の44ページの「目指すべき将来像」には大いに共感できます。しかし、例えば「連携による、コンパクト化、ネットワーク化」で「文化」がどうなるのかイメージできません。</li> <li>・地理学を専攻するものとしては、おそらく地理学の理論である「中心地理論」のようなものを基盤に「連携中枢都市圏構想」というものが考えられているのだと思いますが、「中心地理論」だと連携する分野はもっと都市的機能に限定されています。この点が地理学を専攻する私にとって、今回この構想にクエスチョンマークがついてしまう箇所であり、そのため、上記に挙げた2点のような意見を出してしまうのですが、例えば「連携中枢都市圏」における農業の将来像とはどのようなイメージになるのでしょうか。おそらく農産物の流通・販売という都市機能を指しているのかもしれませんが・・・。</li> </ul>	

No.	分類	意見等	回答
2	圏域において 取り組むべき 重要なテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3章「2 圏域において取り組むべき重要なテーマ」に関係人口の拡大の推進が挙げられていながら、それを後押しする具体的な事業がない（分かりづらい）のが気になりました。</li> </ul>	
3	資料4 第3章2 (P44)	<ul style="list-style-type: none"> <li>44 ページに記載の「圏域において取り組むべき重要なテーマ」で6項目記載されています。このテーマと、具体的施策の関連性が見えにくく感じます。全て関連付けるのは難しいと思いますが、各施策が重要テーマに与える効果を見えやすくしていただけるとありがたいです。</li> </ul>	
4	成果指標 (K P I)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4章「2 具体的な取組」全体を通して、現在設定している成果指標（KPI）が事業の上位目標ということであれば、それをKGIと設定し直し、各事業のそれぞれにKPIを設定した方が、ビジョンの実施状況の評価の際に有効と思います。 ※KGI:重要目標達成指標。最終目標を定量的に評価する指標のこと</li> </ul>	
5	資料4 第4章2 (P52)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高橋市長のご挨拶にもございましたが、「まち・ひと・しごと創生」について各市町村様でご検討され、各種施策に取り組みられたものとお察しいたします。連携中枢都市圏ビジョンは、定住自立圏構想よりも広がりを持った分野での検討となることから、各市町村様の各種施策について、効果と課題（特に施策推進にあたってネックとなった事業）を共有していただき、実効性ある取組を期待いたします。</li> <li>KPI の設定について、具体的な施策ごとに KPI を設定しないと効果が検証できないのではないかと思います。</li> <li>KPI の成果指標について、設定した水準の妥当性についてご説明</li> </ul>	

No.	分類	意見等	回答
		<p>いただけるとありがたいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ KPI について，年度ごとに成果指標を設定し検証していかないと PDCA サイクルが回らないのではと考えます。</li> </ul>	
6	<p>成果指標 (K P I) 医師数</p> <p>資料4 第4章2 (P61)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的な取組として，61 ページの生活環境の充実で医師数 85 人増加させる計画としているが，医師数については，県保健医療計画でも具体的な数字があるが整合はとれているのでしょうか。</li> </ul>	
7	<p>概算事業費</p> <p>資料4 第4章2 (P53～)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記の意見に関連して，概算事業費が計上されているが，ラウンドで表示することなく千円単位で記載しているが，固まっているのでしょうか。ラウンドでの表示（大枠の金額）での記載が望ましいのではないのでしょうか。</li> </ul>	
8	<p>具体的取組 (1) 地域経済 の活性化</p> <p>資料4 第4章2 (P53)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4章2「具体的な取組」(1) 地域経済の活性化について，a 企業や産業の育成・支援事業が事業①の一つというのは何となく寂しい感じがする。もちろん，それは各企業の高度化につながるものであり，事業そのものの否定はいたしません。連携中枢都市圏を構成する市町村は，第1章「3 連携中枢都市圏を構成する市町村」，第2章「4 産業の状況」で説明がされてあるように，基幹産業（強み）が異なり，広域で見れば，1次産業，2次産業，3次産業の豊富な資源があり，この豊富さを活用しそれらを連携・融合させる</li> </ul>	

No.	分類	意見等	回答
		<p>ような新たな事業があると、連携中枢都市圏らしい取組となるのではないかと思います。</p>	
9	<p>具体的取組 事業② 農業人材  資料4 第4章2 (P54)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業②「先進的農業実践人材の育成事業」について、</li> <li>ア 事業対象者を新規（親元）就農者，現農業者を対象としてほしい。</li> <li>イ そのためには周知方法をいかにするか。</li> <li>ウ 中心となる水戸市のどこの部署が担当となるのか。また，圏域内市町村との連携はどうなるのか。</li> <li>エ 農業の最先端技術は，現場農家にあると思うので，その情報収集をどうするのか。</li> <li>オ 県央農林事務所，JAとの関係はどう考えているのか。</li> </ul>	
10	<p>具体的取組 農業者移住・ スポーツ  資料4 第4章2 (P54・P66・ P72)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業でも農業者移住など積極的に取組む。また，スポーツなどでも何かできることがあると思う。このビジョンをうまく利用して隣の市・町との連携なども考えてみてはいかが。</li> </ul>	

No.	分類	意見等	回答
11	具体的取組 事業⑱ 芸術・文化  資料4 第4章2 (P66)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業⑱「芸術・文化教育の推進事業」について、連携中枢都市圏9市町村でそれぞれ実施されている芸術鑑賞事業等の芸術・文化イベント等への相互参加・相互交流は、それぞれ自治体における施設の規模や担当スタッフ、企画等に差があり、即実行というのは時期尚早と思う。</li> <li>・これらの相互交流は、目指すべき目標として掲げつつ、当面は現時点で、音楽（コンサートホールATM）・演劇（ACM劇場）・美術（現代美術ギャラリー）面での質の高いノウハウを有する「水戸芸術館」主催の芸術鑑賞事業等に、連携市町村の子供たちが鑑賞できる機会の提供を推進していく。</li> <li>・その際の提案のひとつとして、この連携中枢都市圏ビジョン第3章の目指すべき将来像で掲げている重要テーマのひとつである「SDGsの推進」項目に鑑み、推進17目標のうち「ジェンダー平等を実現しよう」にスポットを当てた「芸術鑑賞劇」を、水戸芸術館専属楽団である「ACM」に企画から演劇の公演までお願いし、圏域の子供たちに鑑賞させることで、幼少期からジェンダー平等に関する意識、SDGsの推進にもつながっていくのではないか。</li> </ul>	
12	具体的取組 文化財等  資料4 第4章2 (P66)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化面においては、連携中枢都市圏内にある文化財、観光資源、イベントなどの地域資源をネットワークを組んで活用し、圏域相互の交流事業として推進していく。</li> </ul> <p>(ひたちなか市・大洗町のそれぞれの埋蔵文化財（それぞれの国指定史跡等）をネットワーク化し、相互交流をはじめ、生涯学習の深化、観光イベント化していくことを検討中)</p>	

No.	分類	意見等	回答
13	具体的取組 事業⑱ プロスポーツ  資料4 第4章2 (P66)	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業No.⑱「プロスポーツによる地域活性化事業」について、圏域に拠点を置くプロスポーツチームを活用した選手との触れ合い、観戦事業を含めた交流事業の開催は、圏域の子どもたちはもとより、親世代にとっても、とても有意義な体験になるものと思う。</li> <li>圏域でみても、水戸市のホーリーホック（男子サッカー）、ロボッツ（男子バスケ）、ひたちなか市のリブアーレ（女子バレー）、クーガーズ（女子バスケ）、日立女子陸上部等のプロスポーツ等が拠点を置いており、現在も所在自治体とパートナー協定等を結びつつ、所在地域における観戦試合の提供や地域の子供たちに向けたスポーツ教室等が実施されている。これら貴重な有効資源を活用させていただき、それぞれのスポーツチーム（所属企業等）の同意を得られれば、より広域的な利活用が可能となる。合わせて、これらプロ公式戦等の所在圏域開催の折には、圏域住民の優先観戦機会の提供も考慮していく。</li> </ul>	
14	具体的取組 事業⑳ 施設広域利用  資料4 第4章2 (P67)	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業⑳「公の施設の広域利用促進事業」について、広域利用促進策の一つである「スタンプラリー」があるが、現在のスタンプラリー景品は「クリアファイル」である。スタンプ2つで景品を受け取れる現在のシステムであるが、このシステム自体、再考してもいいのではないかと思う。</li> <li>もらう側もちょっとしたサプライズ感を味わえるグッズ、スタンプ押印数を増やすなど。</li> </ul>	

No.	分類	意見等	回答
15	定着に係る 取組の提案  資料4 第4章2 (P72)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者に対して、親近感を感じられる身近な人で県央愛にあふれた方の人生を紹介して、単純に県央に定着したいと思えるイメージを持ってもらう事業を提案する。</li> <li>・具体的には、茨城に住んでいる学生がかっこいいと思うような比較的若い方の生き方（有名人など一般の人とはかけ離れた人物ではなく、公務員や地元の企業に就職して働いて子育てしている人など、なるべく親近感がわくような方で安定的な生活を送っている方で地元を好きな方が望ましいと思っています。）を各市町村男女1名ずつ選んで、茨城に住んだ理由やこの町に住んでよかったと思ったこと等をパンフレットにして、高校生とか大学生に配布して紹介することで、単純に茨城に住みたいと思ってもらえれば、都市部一極集中の緩和と少子高齢化を少しでも食い止めることが比較的低予算でできるのではと考えました。</li> <li>・幼稚でありきたりな考えと思われるかもしれませんが、私はコロナ前の2年間で100名ほどの地元高校生や大学生のインターンシップの受け入れを行ってきました。弊社のインターンシップは旅行を企画してもらい、その旅行の参加者を実際に募集し、集まったお客様と一緒に旅行に行くという具合なのですが、企画から手配、旅行準備と事前確認、そして実際の旅行と非常に長い時間を一緒に過ごし、長期にわたりメールや電話でやり取りします。その際の学生との会話から感じたことなのですが、大多数の若者は日々なんとなく生きているので、自分の生き方などを真剣に考えることはほとんどありません。当然、今後の人生をどうしたいですか？と質問してもなるようになるしか・・・というような回答</li> </ul>	

No.	分類	意見等	回答
		<p>か無回答かのどちらかで、次までにせつかくだから考えてみてといても驚くほど何もしてこない学生ばかりで、つまり考えるのも面倒とっていて理想の生き方などなく流されて生きているのです。この真っ白な段階の若者たちに、地元の生き活きと生きる人生の先輩方の生き方を紹介したら、私もこのようになりたいと思って地域に定着していただけるのではないかと考えました。</p>	
16	<p>新型コロナウイルスに係る 取組の提案</p> <p>資料4 第4章2 (P62)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの実態を数字で比較してそれぞれが判断する事業を提案する。</li> </ul> <p>新型コロナウイルス感染症により、国民が安心して快適な暮らしを営んでいけない現状になっていますが、私どもが通勤通学や毎日の生活を営むこの県央地域においてウイルスの実態を正確に理解することが真っ先にやる事ではないでしょうか。将来像の実現に向けた具体的な取り組みを日頃の生活が不安な現状でいくら行っても、目標達成への足取りは重いままだと考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国民は正しい情報を欲しがっています。過去の例を挙げれば東日本大震災の後、多くの県民は福島第一原発の事故から漏れる放射能を恐れていました。町や市、県などから発表される細切れの情報では到底安心できるものではなく、また色々なメディアを見てもネットで調べても国内では前例がない事態に正確な情報と思えるものがありませんでした。当時私は笠間青年会議所という団体に所属していて、その事業で茨城大学の放射線に詳しい教授さんをお呼びし（私が指揮を執った事業ではないのでお名前は失念しました。）地元のポレポレで住民向けの説明会といたしますか、有識者である先生方の見解を聞ける場を設けました。大々的に PR を</li> </ul>	



No.	分類	意見等	回答
		<p>したわけではないのに会議室に入りきらないほど市民の方にご来場いただき、住民はやはり不安だったのだと痛感させられました。その時の私の感想では、茨城県は安全ですよとかそういったことを先生は話されたわけではないのですが、先生方が日頃行っている放射線の測定や結果、日頃参考までに持っている簡易の線量計での数字などの話を聞くことにより、それまで真っ暗闇の手探りで歩く毎日から、一つの道しるべが見つかり安心して少しずつ歩けるようになった気がしました。多くの住民の方も同じ気持ちだったのではないかと推測しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返しますが、住民が知りたいのは正確な情報となる数字、比較できるデータです。住民は専門家ではないので、コロナ前前後での単純な出生数と死亡数の超過死亡での比較、従来のインフルエンザとの比較、がんや老衰、自殺などとの比較、韓国、台湾、イギリス、アメリカなどの同等の都市圏などと、なるべくわかりやすく比較をして、その状況を住民に発表するのが良いのではないかと考えています。</li> </ul>	
17	<p>進行管理</p> <p>資料4 第5章 (P75)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事業として①～⑩が挙げられているが、連携市町村の役割の項目に「水戸市と連携して」という表現があるが、協議会等具体的に進捗を図る、あるいは進捗させるための機関は行政の中に設置しないのでしょうか。</li> </ul>	